

社会教育委員向けの「手引き」プロット案

はじめに 社会教育委員に寄せられる期待

第 1 章 社会教育委員の課題と今後の展望

- ① 活動状況にかかる課題
- ② 社会教育委員の役割にかかる課題
- ③ 調査研究・研修にかかる課題
- ④ 社会教育委員会議に係る課題
- ⑤ 選任方法等にかかる課題

編集方針

- 第1章は、項目に掲げる「課題」について調査結果を基に提示し、これに応えるための「今後の展望」を示せるようにする。
- 検討事項1～2のアンサーが「今後の展望」となる。

第 2 章 これからの生涯学習 ～社会教育委員としてできること～

- ① 自己を高め、豊かに生きる生涯学習
 - ア 人生100年時代について
- ② 人をつなぎ、地域をつくる生涯学習
 - イ 地域と学校との連携・協働
 - ・コミュニティ・スクールと地域学校協働活動
 - ・地域社会をコーディネートする人材
(地域学校協働活動推進員、社会教育士)
 - ウ 社会的包摂の実現に向けて
 - ・社会的に孤立しがちな住民への支援
(外国人、障害者、困難を抱える家庭や子供)
 - ・中学校卒業後の進路未定者、高校中退者を対象とした支援
- ③ 未来を築く生涯学習
 - エ 命を守る生涯学習
 - ・大規模自然災害や感染症等の課題への対応
 - オ 超スマート社会 (society5.0) の到来に向けて
 - ・社会教育を維持するためのオンラインを活用した取組
 - ・社会教育施設における ICT 環境の整備と活用
 - ・デジタル・ディバイドの解消、情報リテラシー、情報モラル

編集方針

- 第2章は、「この一冊に社会教育の知識・情報を詰め込むもの」とせず、「この手引きをきっかけに社会教育についての調査・研究を始めることのできる自学の入り口の本」と位置づける。
- 調査結果を基に問題提起をする。